

TCP-D561 TCP-D561BT

UHFデジタル簡易無線電話装置(登録局)

取扱説明書(詳細編)



株式会社 JVCケンウッド

B5A-3792-00/00 (J)

目次

別売り品について	
オプション一覧	4
バッテリーパックの取り扱い	5
バッテリーパックの取り付け	5
バッテリーパックの取り外し	5
ご使用前に	
バッテリーパックの充電	7
充電台の連結のしかた	7
充電のしかた	8
オプション機器の接続 (別売品)	10
半挿しエラー警告	10
ストラップの取り付け	10
アンテナの取り付け	11
ベルトフックの取り付け	11
操作キー/ツマミ	12
各部の名称と働き	
表示部	13
操作説明について	15
通話する	15
操作のしかた	
通話するときのアドバイス	17
グループで通話する	18
ユーザーコードを設定する	18
秘話機能で通話する	19
Bluetooth [®] 機器を使って通信する (TCP-D561BTのみ)	20
Bluetooth 機器とペアリングする	20
Bluetooth 機能による電波干渉についてのご注意	22
デュアルグループ ACS 機能を使って検索する	23
ユーザーコードを設定する	23
デュアルグループ ACS 機能を使う	23
その他の基本機能	25
はっきり聞き取りモード	25
キーロック機能	25
送信出力切替機能	26
チャンネルスキャン機能	26
スキャン対象	26
バックライト機能	26
VOX 機能	27
VOX レベル (マイク感度) 設定	28
VOX 遅延時間設定	28
セカンド PTT チャンネル	29
ラジオモードセレクション機能	30
無線機情報モード	30
全初期化モード	31
SPP モード	31
メニューモードについて	32
メニューモードへの入り方	32
メニューモードの操作方法	32
メニューモード機能一覧	33
拡張メニューモード機能一覧	36
販売店にて追加できる機能について	41

◆メニューモードおよび拡張メニューモードの機能一覧の項目については、各メニューモードの機能一覧のページを参照ください。

目次

その他

故障かな?と思ったら	42
電波法に関するご注意	43

説明上の注釈表記について



◆ このマークが付いた注釈は、使用上での注意事項が記載されています。



◆ このマークが付いた注釈は、使用上での補足事項が記載されています。

別売り品について

オプション一覧

本機用として下記のオプションが用意されています。

KNB-75LA.....	リチウムイオンバッテリー (1820mAh)
KNB-76L.....	リチウムイオンバッテリー (2200mAh)
KSC-47L.....	急速充電器 (連結非対応)
KSC-49LCR.....	連結充電台
KSC-45LSL.....	KSC-49LCR 連結充電台用 AC アダプター
KSC-256A.....	6 連急速充電器
KBH-20.....	ベルトフック
KBH-21.....	ベルトフック
KMC-55.....	スピーカーマイクロホン
SMC-35.....	スピーカーマイクロホン
SMC-36.....	スピーカーマイクロホン
EMC-13.....	イヤホン付きクリップマイクロホン < VOX 対応 >
EMC-14.....	イヤホン付きクリップマイクロホン < VOX 対応 >
EMC-15.....	イヤホン付きクリップマイクロホン < VOX 対応 >
EMC-16.....	イヤホン付きクリップマイクロホン < VOX 対応 >
KHS-37.....	ヘッドセット (耳掛けタイプ) < VOX 対応 >
KHS-55BT.....	ワイヤレスヘッドセット < VOX 対応 > <small>TCP-D561BTのみ</small>
KEP-6.....	イヤホン (φ 2.5)
HS-9(G).....	プチホン型イヤホン (φ 2.5)
KBP-9.....	バッテリーケース
KLH-203.....	ハードケース
KLH-210.....	ハードケース
KSB-1.....	ショルダーベルト



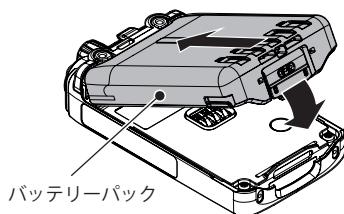
- ◆ バッテリーケース KBP-9 使用時の送信出力はローパワー (1W) になります。
- ◆ 本機に使用できるオプションについては、追加されたり、生産が終了したりすることがあります。最新の情報についてはカタログなどをご覧ください。

ご使用の前に

バッテリーパックの取り扱い

バッテリーパックの取り付け

- 1 バッテリーパック上側の凸部と本体裏側のみぞを合わせ、バッテリーパックを押し込みます



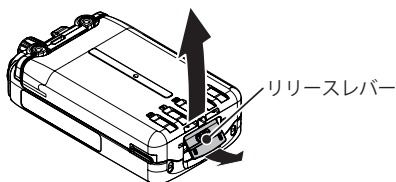
- 2 リリースレバーを本体にロックさせます



◆ バッテリーパックを取り付け / 取り外すときは、無線機本体やバッテリーパックを落とさないように注意してください。

バッテリーパックの取り外し

- 1 バッテリーパックのリリースレバーを開きながら取り外します



ご使用前に

バッテリーパックの特性について

- ・ 充放電を繰り返すと、使用できる時間が徐々に短くなります。
- ・ 使用せずに置いておくだけでもわずかながら電池の劣化が進みます。
- ・ 低温での充電時間は、室温時より長くなる場合があります。
- ・ 高温状態で充放電したり、無線機を使用したりすると寿命が短くなります。また、高温状態での保管も劣化の進行が早まります。車の中に置いたままにしたり、暖房機の上に置いたりしないでください。
- ・ バッテリーパックを高温状態で放置すると使用できなくなります。バッテリーパックが常温まで冷めてから使用してください。常温の状態でも使用できない場合は、一度充電してください。使用できるようになります。
- ・ 長期間保管後は、電池容量が低下していることがあります。必ず充電してからご使用ください。
- ・ 満充電しても使用時間が短くなってきた場合は、バッテリーパックの寿命です。このまま充電/放電を繰り返すと、液漏れの原因になることがあります。新しいバッテリーパックをお買い求めください。

使用済みバッテリーパックの取り扱い注意事項

- ・ プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- ・ 被覆をはがさないでください。
- ・ 分解しないでください。



Li-ion 20
充電式

不要になったバッテリーパックは、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店、弊社営業担当窓口、または販売店へお持ちください。リサイクルにご協力お願いいたします。

バッテリーパック使用時間の目安

使用条件	バッテリーセーブ機能	
	オン(初期値)	オフ
KNB-75LA 使用時	15 時間	13 時間
KNB-76L 使用時	18 時間	15 時間

送信出力 5 W で、送信 5/受信 5/待受 90 の比率にて連続運用した場合の時間です。

バッテリーパック残量警告

バッテリーパックの容量が減ると、表示部の が点滅し、LED が赤色に点滅し「ププブ」と警告音が鳴ります。早めにバッテリーパックを充電するか交換してください。

: 十分 : 残量あり : 残量少 (点滅) : 残量なし (要充電)

バッテリーパックの充電バッテリーパックは出荷時には満充電されていません。使用前に必ず満充電にしてください。また、使用後も必ず充電してください。

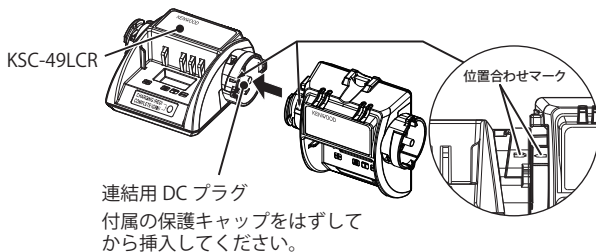
バッテリーパックの充電

充電台 KSC-49LCR / ACアダプター KSC-45LSLを使用する場合：

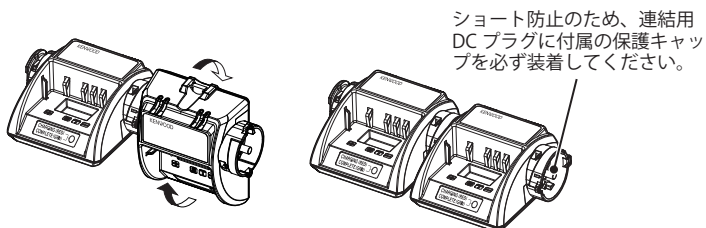
充電台の連結のしかた

充電台 KSC-49LCR は最大 6 台まで連結することができます。

1 充電台側面の凹凸を組み合わせて挿入する



2 「カチッ」と音がするまで、矢印の向きに回転させて、確実に連結する

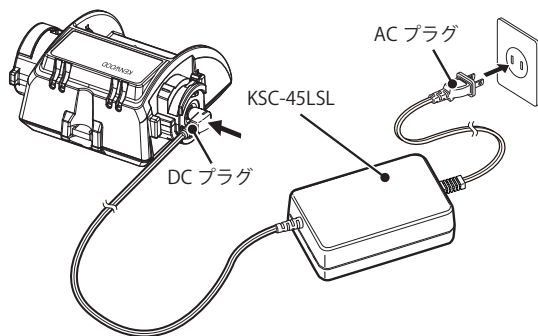


- ◆ KSC-49LCR 以外の充電台は連結できません。
- ◆ 7 台以上の連結は絶対にしないでください。故障の原因となります。
- ◆ 連結した状態で充電台を持ち上げたり、移動したりしないでください。連結部が破損する原因となります。

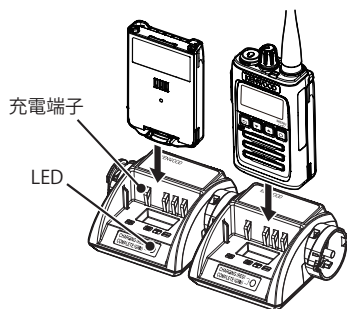
ご使用前に

充電のしかた

- 1 ACアダプター KSC-45LSLのDCプラグを充電台に接続する
- 2 ACプラグをコンセントに差し込む



- 3 バッテリーパック、またはバッテリーパックを装着した状態の無線機を充電台に差し込む
 - バッテリーパックの金属端子が充電台の充電端子にしっかりと接触していることを確認してください。
 - LED が赤点灯して充電が開始されます。



◆ 無線機をご使用しながら充電はできません。無線機を充電台に差し込むときは、必ず電源を切ってください。

- 4 充電が完了すると、LEDが緑点灯する
バッテリーパックまたは無線機を抜き取ってください。
充電時間の目安は下記のとおりです。
 - KNB-75LA：約 200 分
 - KNB-76L：約 250 分

ご使用前に

充電時の状態表示

LEDの色	状態
赤点灯	充電中であることを表します。
赤点滅または点灯しない	バッテリーパックが正しく差し込まれていない場合があります。再度差し込みなおしてください。また、充電端子が接触不具合を起こしている場合もあります。充電台の端子やバッテリーパックの端子を綿棒や乾いた布で拭いてから再度充電してください。 それでも改善しない場合は、バッテリーパック、または充電台に何らかの不具合があります。直ちに充電を中止して、お買い上げの販売店、または JVCケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。
緑点灯	充電が完了したことを表します。
緑と橙が交互に点灯	バッテリーパックの温度が充電温度範囲外になっています。一度バッテリーパックを充電台から抜き、バッテリーパックが常温になってから再度充電台に挿入してください。

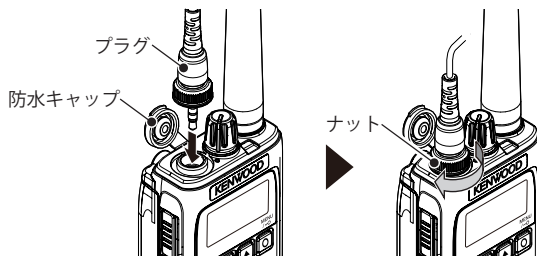


- ◆ 必ず専用のバッテリーパック、充電台、ACアダプターを使用して充電してください。指定以外の機器を用いて充電すると故障の原因になります。
- ◆ 充電台や、ACアダプターまたはACアダプターのケーブルが損傷している場合は、充電せずお買い上げの販売店にご連絡ください。
- ◆ 充電端子を金属物などでショートさせないでください。
- ◆ コンセントから、ACアダプターを外す際は、コードではなくACプラグを持って抜いてください。
- ◆ 充電台は、ACアダプターのケーブルを踏んだり、引っ掛けたりして、損傷したりしない場所に置いてください。
- ◆ 本体やバッテリーパックが濡れたままでは充電すると、故障の原因になります。無線機本体やバッテリーパックが濡れているときは、乾いた布でよく拭き取ってから充電台に差し込んでください。
- ◆ 充電台の端子は、ゴミなどが付着しないように綿棒や乾いたやわらかい布で時々拭いてください。
- ◆ 充電台の近くで無線機を使用すると、充電台が誤動作することがあります。

オプション機器の接続 (別売品)

イヤホン/スピーカーマイクロホンなど外部機器を接続します。

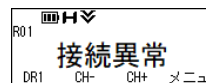
防水キャップを外して、無線機の接続端子にオプション機器のプラグを差し込み、プラグのナットを時計方向(右)に固定されるまで回して確実に取り付けます。



- ◆ 必ず無線機の電源を切った状態で接続してください。
- ◆ 防水キャップが正しく取り付けられていないと防水性能は保証できません。オプションを使用しないときは、防水キャップが正しく取り付けられていることを確認してください。また、オプションを接続した場合は防水性能の保証はできません。
- ◆ 断線防止のため、オプションを取り外すときは、プラグを持って取り外してください。

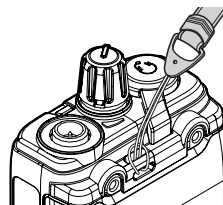
半挿しエラー警告

オプション機器のプラグ接続が不完全な場合を検出すると、右記の画面になりエラー音が鳴ります。接続の不具合が解消されたときエラー表示とエラー音は停止します。



ストラップの取り付け

別売品のネックストラップ SB-4 や市販品のストラップを取り付けるときは、無線機背面上部のストラップ用穴を使用してください。

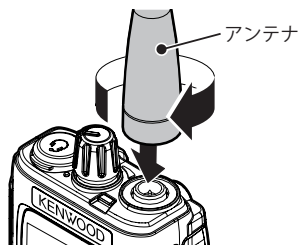


- ◆ ストラップを持って本機を振り回したりしないでください。故障やけがの原因となります。

ご使用前に

アンテナの取り付け

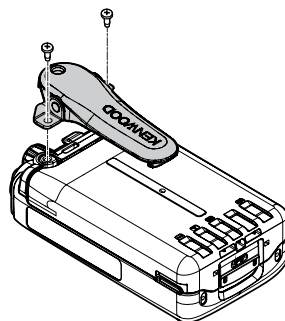
付属アンテナの根元を持ち、本体上面のコネクタに時計方向（右）に固定されるまで回して確実に取り付けます。



ベルトフックの取り付け

ベルトフックと本体のねじ穴を合わせて、付属のねじで取り付けます。

ベルトフックを本体のねじ穴に合わせて、ねじが緩まないようにしっかり取り付けてください。

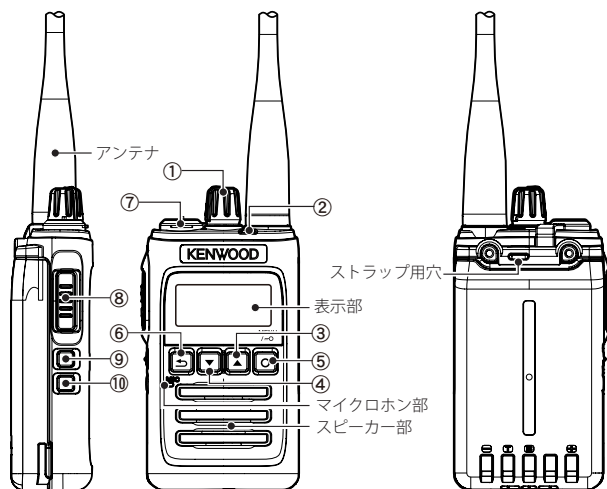


- ◆ 付属以外のねじを使用しないでください。
- ◆ 時々ねじの緩みがないか確認してください。

各部の名称と働き

操作キー/ツマミ

本機の【O】、【▲】、【▼】、【↵】、【サイド1】、【サイド2】キーには、任意の機能を登録することができます。



① 【電源/音量】ツマミ

電源のオン/ オフ、および音量を調節します。

② LED

送信時は赤色に点灯します。受信時は緑色に点灯します。

選択呼出受信のときは設定した色に点滅します。

③ 【▲】アップキー

出荷状態で設定されている機能	
押す。	チャンネル番号が上がります。
押し続ける。	オートチャンネルセレクトを開始します。

④ 【▼】ダウンキー

出荷状態で設定されている機能	
押す。	チャンネル番号が下がります。
押し続ける。	チャンネルスキャンを開始します。

⑤ 【O】メニューキー

出荷状態で設定されている機能	
押す。	メニューを表示します。
押しながら電源を入れる。	拡張メニューを表示します。
押し続ける。	キーロック機能がオン/オフします。

⑥ 【↵】バックキー

出荷状態で設定されている機能	
押す。	チャンネル表示のときに押すと CH15 の呼出しチャンネル (ダイレクトチャンネル機能) に切り替わります。
押し続ける。	機能は設定されていません。

⑦ オプション接続端子 (防水キャップ)

各部の名称と働き

イヤホン/スピーカーマイクロホンなど外部機器を接続します。

⑧ 【PTT】スイッチ


押すと送信します。押したままマイクロホンに向かって話します。

⑨ 【サイド1】キー

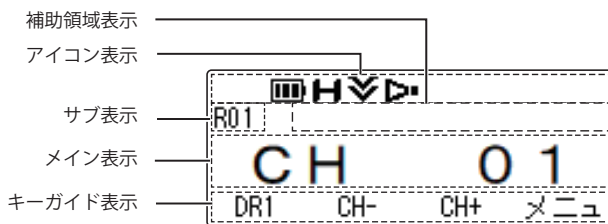
出荷状態で設定されている機能	
押す。	表示しているチャンネルのスキャン対象 / 非対象を切り替えます。
押し続ける。	送信出力 (ロー・パワー) に切り替わります。

⑩ 【サイド2】キー

出荷状態で設定されている機能	
押す。	設定されたセカンド PTT チャンネルに移ります。 ◆セカンド PTT 機能を使う為には、事前にメニューモードでセカンド PTT チャンネルの設定をおこなっておく必要があります。
押し続ける。	機能は設定されていません。

 ◆各操作キーの動作機能は出荷時の設定です。各操作キーの動作は販売店で設定を変更することができます。

表示部



表示エリア	説明
アイコン表示	設定された機能の動作をアイコンで表示します。
メイン表示	チャンネル番号やメッセージなどを表示します。
サブ表示	登録局のチャンネル番号などを表示します。
補助領域表示	設定された機能の補助的内容を表示します。
キーガイド表示	[<] [▼] [▲] [O] キーを押すと起動する機能を表示部の下側に表示します。 ※表示されるキーガイドは無線機の状態です。

各部の名称と働き

表示可能なアイコン

アイコン	説明
	受信している電波の強さを表示します。 :強 :中 :弱 :微弱 表示なし:キャリアなし
	バッテリー容量の残量を表示します。 :高 :中 :低 (点滅):早めに充電してください。
	送信出力がハイパワーに設定されているときに表示します。
	送信出力がローパワーに設定されているときに表示します。
	上空チャンネルに設定されているときに表示します。(受信専用)
	PTT ホールド機能が設定されているときに表示します。
	スキャン中に表示します。スキャンが一時停止中のときは点滅します。
	デュアルグループ ACS 機能がオンのときに表示します。
	デュアルグループ ACS 機能で、サブグループのチャンネルで送信のとき、または停止中のときに点滅します。
	セカンド PTT 機能がオンのときに表示します。 セカンド PTT チャンネルを表示しているときは点滅します。
	選択しているチャンネルまたはスキャン一時停止しているチャンネルがプライオリティチャンネルに設定されているときに表示します。
	選択しているチャンネルまたはスキャン一時停止しているチャンネルがスキャンの対象チャンネルであると表示します。
	秘話機能がオンのときに表示します。
	暗号化された信号を受信すると点滅します。
	秘話プラス機能がオンのときに表示します。
	暗号化された信号を受信すると点滅します。
	モニター機能がオンのときに表示します。
	Bluetooth 機能がオンのときに表示します。処理中のときは点滅します。(TCP-D561BTのみ)
	Bluetooth 機器と接続中に表示します。(TCP-D561BTのみ)
	キーロック機能がオンのときに表示します。
	サイレントアラーム機能が設定されているときに表示します。
	点滅:サイレントアラーム機能による音声ミュート状態のときに表示します。 点灯:音声ミュートをキー操作で解除したときに表示します。
	はっきり聞き取り機能がオンのときに表示します。
	音量アッテネート機能がオンのときに表示します。
	イヤホンモードがオンのときに表示します。
	選択呼出が一致しているときに点滅します。
	VOX 機能がオンのときに表示します。
	劇場モードがオンのときに表示します。
	外部スピーカーがオンのときに表示します。



◆ 無線機の設定状態により、使用できる機能および表示されるアイコンは変更されます。

操作のしかた

操作説明について

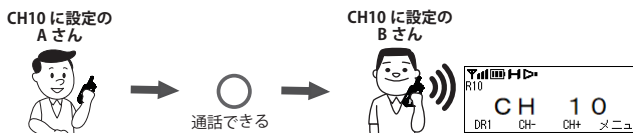
本取扱説明書の操作説明は工場出荷時に設定されている機能を説明しています。

操作手順の説明では、操作キー（【O】キー、【電源/音量】ツマミなど）の、「キー」、「ツマミ」を記載しません。

通話する

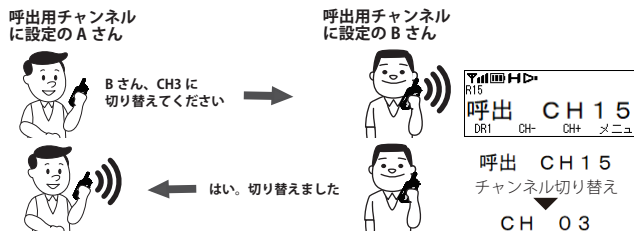
- 1 【電源/音量】を時計方向に回して電源を入れる
「ピーッ」と鳴り電源が入ります。電源を切るには【電源/音量】を「カチッ」という音がするまで反時計方向に回します。
- 2 【電源/音量】を回して音量を調整する
右（時計方向）に回すと音量が大きく、左（反時計方向）に回すと音量が小さくなります。
- 3 【▲】/【▼】を押して通話チャンネルを合わせる
使用するチャンネルが決まっている場合の通話

電源オン/
音量上げる



通話する相手局と同じチャンネルに合わせます。相手局の電波を受信すると、LEDが緑色に点灯し、スピーカーから受信音が聞こえます。

使用するチャンネルが決まっていない場合の通話



呼出用チャンネル (CH15) に合わせて、通話したい相手と使用するチャンネルを決めます。



- ◆ 呼出用チャンネル (CH15) は、不特定多数の人との通話を含め、一時的な呼出チャンネルとなっており、継続的な通話の場合は、別のチャンネル (CH1~14、16~30、S1~S5 (受信専用)) に切り替えてから通話してください。
- ◆ 呼出用チャンネル (CH15) ではユーザーコード (UC) を使ったグループ通話や秘話機能などを設定した通話ができませんのでご注意ください。

- 4 【PTT】を押して送信する

送信状態になり、LEDが赤色に点灯します。

- 他に送信している無線局がないこと (送受信 LED の緑色が消灯していること) を確認してから送信してください。

操作のしかた

- 5 【PTT】を押しながらマイクロホンに向かって話す
マイクロホンは口元から 3~4 cm 程度離してください。【PTT】を離すと待受状態に戻ります。



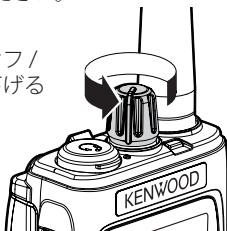
◆ 大きな声で話したり、マイクロホンとの距離が近すぎたりすると、明瞭度が低下する場合があります。

- 6 相手の音声を受信する
【PTT】を離すと待受状態になります。相手が送信し、受信すると、表示部に電波状態のアイコンが表示されて、LED が緑色に点灯し、相手の音声聞こえます。



- 7 【電源/音量】を反時計方向に回して電源を切る
使用後は、電源を切ってください。

電源オフ/
音量下げる

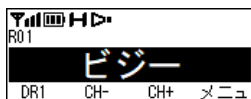


通話するときのアドバイス

キャリアセンス(混信防止機能)について

本機は、電波法の規定によりキャリアセンス(混信防止機能)を備えています。

送信しようとしているチャンネルを他の局が使用中の場合は、そのチャンネルでの送信を禁止する機能です。送信しようとするチャンネルが他の局に使われているときに【PTT】を押すと、警告音が鳴り、表示部に「ビジー」と表示されます。他の局が通話を終了してから送信してください。

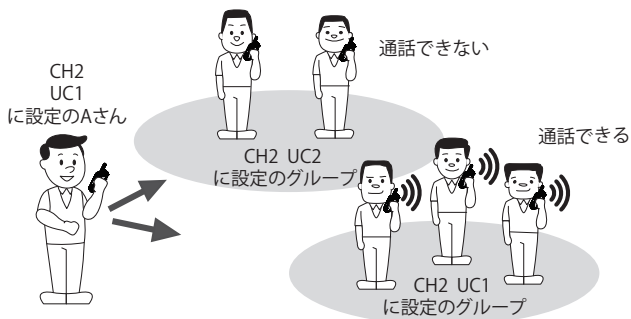


通話時間の制限について

本機は、電波法の規定により1回の通話時間を、送信と受信あわせて5分間に制限しています。連続送信を自動的に停止する機能です。本機は、連続して5分以上の送信はできません。5分以上送信を続けると警告音が鳴り、送信が停止します。この場合1分以上経過しないと再度送信することはできません。

グループで通話する

ユーザーコードを使用すると、簡易のグループ通話をおこなうことができます。同じチャンネルを複数のユーザーが使用している場合、同じユーザーコードを設定しているグループの相手とだけ通話することができます。



ユーザーコードを設定する

グループ通話をおこなうには、送信側、受信側ともに同じユーザーコードに設定しておく必要があります。

- 1 **【O】**を押してメニューに入る
メニューモードの設定項目が表示されます。
- 2 **【▼】/【▲】**で、カテゴリーアイコンの「機能設定」にカーソルを合わせ、**【O】**を押す



- 3 **【▼】/【▲】**で、設定項目「UC設定」を表示させ、**【O】**を押す
ユーザーコード (UC) の設定値が表示されます。
- 4 **【▼】/【▲】**で、1桁目のユーザーコードを1~9から選択し、**【O】**を押す



- 5 2桁目以降を設定する場合は、手順4を繰り返す(2桁目以降は0~9)
ユーザーコードは、なし、1~511の範囲で設定することができます。
 - 2桁以上を表示しているときに、**【>】**を押すと1桁目が削除されます。
 - **【>】**を1秒以上押すと全桁が削除されます。
- 6 **【サイド1】**を押し、ユーザーコード確定する

◆ 呼出用チャンネル (CH15) では本機能は使用できません。他のチャンネルを選んでから設定してください。

- 7 **【PTT】**を押して通話する

秘話機能で通話する

デジタルでの音声通話に暗号化をおこない、秘匿性を高めた通話ができる機能です。通話内容の傍受を防止します。

出荷時、秘話機能は設定されていません。各種メニューモードで設定したあと、使用することができます。



- 1 【○】を押しながら電源を入れて拡張メニューに入る
拡張メニューモードの設定項目が表示されます。
- 2 【▼】/【▲】を押して設定項目の「鍵リスト確認」を表示させ、【○】を押す
秘話鍵コードの設定値が表示されます。
- 3 【▼】/【▲】を押して1から32767の秘話鍵コードを選択する
- 4 【PTT】または【サイド】を押す
秘話鍵コードが決定され、拡張メニューモードを終了します。
- 5 メニューモードの「秘話」にて機能をオンに設定する
《p.34 を参照》
- 6 【PTT】を押して通話する
 - 秘話機能は、通話する相手局も秘話機能がオンで、同じ秘話鍵コードが設定されていないと正しく通話できません。
 - 秘話機能で、チャンネルごとに個別設定するか、全チャンネルに対して同じ値を一括設定するか選択するためには販売店での設定が必要です。

Bluetooth[®] 機器を使って通信する (TCP-D561BTのみ)

本機のBluetooth機能を有効にすることで、弊社指定のBluetooth対応機器と接続することができます。

本機で接続できるBluetooth対応機器

本機に接続可能なBluetooth対応機器については、下記のURL および右記のQRコードからご覧ください。

<https://www.kenwood.com/jp/support/com/wireless-headset>



Bluetooth機器とペアリングする

ペアリングとは、無線機とBluetooth対応機器の機器設定をお互いに登録する機能です。一度ペアリングしたBluetooth機器とは、再びペアリングする必要はありません。

弊社指定 Bluetooth 対応機器 KHS-55BT との接続を例に説明します。

【無線機のBluetooth機能をオンにする】

1 【O】を押してメニューに入る

メニューモードのカテゴリーアイコンが表示されます。

- 拡張メニューモードからでも設定可能です。

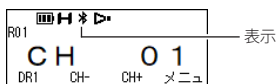
2 【▼】/【▲】で、カテゴリーアイコンの「Bluetooth」にカーソルを合わせ、【O】を押す



3 【▼】/【▲】で、設定項目の「ブルートゥース」を表示させ、【O】を押す

Bluetooth 設定項目名が表示されます。

4 【▼】/【▲】で、「オン」を選択し、【O】を押す

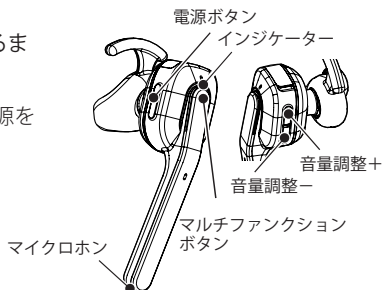
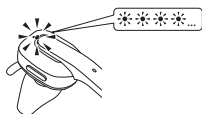


Bluetooth 機能が起動し、アイコン「Bluetooth」が表示されます。

【KHS-55BTをペアリングモードにする】

1 KHS-55BTの電源ボタンをインジケーターが点滅するまで押す(約5秒間)


インジケーターが速く点滅しないときはいったん電源を切って、やり直してください。



<KHS-55BT 各部の名称 >

操作のしかた

【無線機からKHS-55BTをペアリングする】

- 1 【○】を押してメニューに入る
メニューモードのカテゴリーアイコンが表示されます。
 - 拡張メニューモードからでも設定可能です。
- 2 【▼】/【▲】で、カテゴリーアイコンの「」にカーソルを合わせ、【○】を押す



- 3 【▼】/【▲】で、設定項目の「BT機器」を表示させ、【○】を押す
Bluetooth 機器設定項目名が表示されます。

- 4 【▼】/【▲】で、「BT機器検索」にカーソルを合わせ、【○】を押す




- 5 Bluetooth機器の検索を開始し、検出するとBluetooth機器を表示するので選択し、【○】を押す



- 6 接続確認メッセージが表示されるので、【○】を押し接続処理を実行する



- 7 KHS-55BTのインジケーターがゆっくり点滅したら、マルチファンクションボタンを押す
無線機は「接続完了」を表示しアイコン「」が表示されます。



- 8 以降は、Bluetooth機能オンで、自動的に接続されます



◆ 最大 10 台の Bluetooth 対応機器をペアリング登録できます。すでに 10 台登録されているときにペアリングをおこなうと、最も古く登録、または接続した Bluetooth 対応機器の登録を解除し、新しい Bluetooth 対応機器を登録します。

Bluetooth 機能による電波干渉についてのご注意

本機の Bluetooth 機能を使用するときは、下記の内容についてご注意ください。

- Bluetooth に使用される 2.4 GHz 帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、ならびにアマチュア局が運用されています。

本機の Bluetooth 機能を使用する場合は、上記の機器や無線局と電波干渉する恐れがあるため、以下の事項に注意してください。

- 本機の Bluetooth 機能をオンする前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局、2.4 GHz 帯のアマチュア局など（以下「他の無線局」という）が運用されていないことをご確認ください。
- 万一、本機の Bluetooth 機能により「他の無線局」に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに本機の使用場所を変更するか、本機の Bluetooth 機能をオフにしたうえで、JVCケンウッドカスタマーサポートセンターへご連絡いただき、混信回避の処置についてご相談ください。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

株式会社 JVC ケンウッドは使用許諾のもとでこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

デュアルグループ ACS 機能を使って検索する


本機は出荷状態でデュアルグループ ACS 機能が使用できます。

まず、基本となるオートチャンネルセレクト (ACS) 機能の動作について説明します。

オートチャンネルセレクト機能は、空いているチャンネルを通話の都度自動で探し、同じユーザーコードが設定されている受信局も自動的に同じチャンネルへ引き込む機能です。グループが多い場所での混信を緩和します。

オートチャンネルセレクト機能を使用するには、送信側も受信側もオートチャンネルセレクト機能を有効にし、同じユーザーコードに設定しておく必要があります。

ユーザーコードを設定する

- 1 【○】を押してメニューに入る
メニューモードの設定項目が表示されます。
- 2 【▼】/【▲】で、カテゴリアイコンの「機能設定」にカーソルを合わせ、【○】を押す
- 3 【▼】/【▲】で、設定項目「UC設定」を表示させ、【○】を押す
ユーザーコード (UC) の設定値が表示されます。
- 4 【▼】/【▲】で、1~511の設定値から任意のユーザーコードを選択し、【○】を押す

デュアルグループACS機能を使う

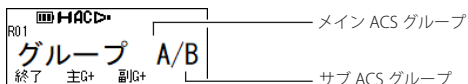
同時に2つの ACS グループを起動させ、通信をおこなうことで、混信・妨害が発生したときに使用チャンネルの切り替えの連絡をする手間が省け、チャンネルの切り替えの連絡を避けることができ、スムーズな通信ができる検索方法です。


メイン(主) ACS グループ					
グループ	検索チャンネル				
グループ A	1	7	14	20	23
グループ B	2	8	13	22	—
グループ C	3	9	16	21	24
グループ D	4	10	17	25	28
グループ E	5	11	18	26	29
グループ F	6	12	19	27	30

サブ(副) ACS グループ					
グループ	検索チャンネル				
グループ A	1	7	14	20	23
グループ B	2	8	13	22	—
グループ C	3	9	16	21	24
グループ D	4	10	17	25	28
グループ E	5	11	18	26	29
グループ F	6	12	19	27	30

- 呼出用チャンネルであるチャンネル 15 は含みません。
- メイン ACS グループとサブ ACS グループで、同時に同じグループを選択することはできません。

- 1 【▲】を長く押す
「AC」アイコンが表示され、グループ ACS でのチャンネル検索を開始します。



 ◆ 【↵】を長押しすると、本機能は解除されます

- 2 【▼】/【▲】で、検索グループを切り替える
メイン ACS グループを切り替えるには【▼】を押す



サブ ACS グループを切り替えるには【▲】を押す



グループを切り替えるとすぐにチャンネル検索を開始します。

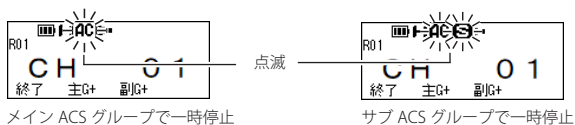
3 受信側に送信する

■ メインACSグループで送信する場合

【PTT】を押すとメイン ACS グループの空きチャンネルで、設定したユーザーコードで送信をおこないます。送信中、および送信終了後 3 秒間、チャンネル検索は一時停止します。チャンネル検索が停止しているあいだは「AC」アイコンが点滅します。

■ サブACSグループで送信する場合

【サイド2】を押すと、サブ ACS1 グループの空きチャンネルで、設定したユーザーコードで送信をおこないます。送信中、および送信終了後 3 秒間、チャンネル検索は一時停止します。チャンネル検索が停止しているあいだは「AC」および「S」アイコンが点滅します。



4 受信側が【PTT】/【サイド2】を押して通話開始する

受信側が、メイン ACS グループの場合【PTT】を、サブ ACS グループの場合、【サイド2】を押して応答すると、空きチャンネルで通話ができます。

- 受信してから 3 秒のあいだに送信しないと、チャンネル検索が再開します。

その他の基本機能

その他、出荷時に設定されている基本機能について説明します。

はっきり聞き取りモード

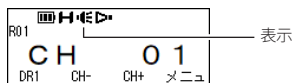
起動させることで、受信オーディオ特性を調整し周囲環境に適した独自の音質モードに切り替えて、騒音下などで受信音声聞き取りやすくする効果があります。

- 1 【○】を押してメニューに入る
メニューモードのカテゴリーアイコンが表示されます。
- 2 【▼】/【▲】で、カテゴリーアイコンの「🎵音響設定」にカーソルを合わせ、【○】を押す
- 3 【▼】/【▲】で、設定項目「はっきり聞き取り」を表示させ、【○】を押す
はっきり聞き取りモードの設定値が表示されます。
- 4 【▼】/【▲】で、項目を選択する

選択した時点で、設定が反映されます。受信音声を聞きながらオン/オフを切り替えることで、聞こえ具合の変化を確認できます。



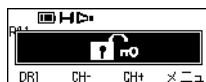
- 5 【サイド1】を押してメニューモードを終了する



キーロック機能

【PTT】/【電源/音量】以外の操作キーに登録した機能をロックし、ポケットなどに入れているときの誤操作を防ぎます。

- 1 【○】を長く押す
「🔒」アイコンが表示され、キーロックのポップアップが表示されてキー操作がロックされます。キーロック中にキーを操作するとピープ音が鳴り、キーロックのポップアップが表示されます。
- 2 【○】を長く押す
「🔒」アイコンの表示が無くなり、キーロック解除のポップアップが表示されてキー操作のロックが解除されます。



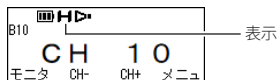
送信出力切替機能

送信出力をハイパワー (5 W) からローパワー (1 W) に切り替えます。

1 【サイド1】を押し続ける

送信出力がローパワー (1W) に下がります。ローパワーのときに【サイド1】を押し続けると、送信出力がハイパワー (5W) に戻ります。

●ハイパワー時は「**H**」が、ローパワー時は「**L**」アイコンが表示されます。

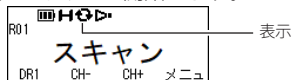


チャンネルスキャン機能

チャンネルを自動的に変化させて目的とする信号を受信できるチャンネルを探す機能です。ユーザーコードを設定しているときは、ユーザーコードが一致するチャンネルを探します。

1 【▼】を長く押す

「**🔍**」アイコンが表示され、スキャンを開始します。



2 スキャン対象のチャンネルで受信する

スキャンが一時停止します。

3 【▼】を長く押す

スキャンを停止し、チャンネル表示に戻ります。



◆ スキャン動作中は、下記の機能を実行することができません。

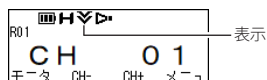
- ・上空チャンネル
- ・送信出力切り替え
- ・ダイレクトチャンネル1を選択

スキャン対象

各チャンネルをスキャン対象にするか、しないかを選択できます。

1 【サイド1】を押す

【サイド1】を押したあと「ピッ」とピープ音が鳴り、「**🔍**」アイコンが表示されます。表示しているチャンネルがスキャン対象チャンネルになったことを示しています。



もう一度、【サイド1】を押して、「ピッ」とピープ音が鳴って、「**🔍**」アイコンが消えると、表示しているチャンネルがスキャン非対象チャンネルになったことを示しています。

- スキャン動作中は、スキャン対象/非対象の切り替えはできません。
- スキャン中に受信チャンネルを除外したい場合は、受信中に【サイド1】を押すことで一時的にそのチャンネルを除外できます。スキャン動作をオン/オフすると元に戻ります。

バックライト機能

LCDのバックライトを点灯させる機能です。暗い場所でLCD表示を見ることができます。


【PTT】以外の操作キーを操作すると表示部が5秒間点灯します。

操作のしかた

VOX機能

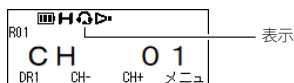
VOX とは、【PTT】を押すことなく、マイクロホンへの音声入力のみで送信できる機能です。
両手がふさがった状態で作業をしているときなど、【PTT】を押すことができない状況で使用します。

- イヤホン付きクリップマイクロホン、またはヘッドセットを接続し、さらに Bluetooth ヘッドセットも接続している場合は、Bluetooth ヘッドセットからの音声入力を優先して VOX 送信します。

- 1 【○】を押してメニューに入る
メニューモードのカテゴリーアイコンが表示されます。
- 2 【▼】/【▲】で、カテゴリーアイコンの「VOX設定」にカーソルを合わせ、【○】を押す
- 3 【▼】/【▲】で、設定項目「VOX」を表示させ、【○】を押す
VOX 機能の設定値が表示されます。
- 4 【▼】/【▲】で、項目を選択する



- 5 【○】を押すと設定項目を確定する




VOX 機能をオン時は、「」アイコンが表示されます。



- ◆ VOX 機能を使用する場合は対応するオプションを使用してください。(「オプション一覧」< VOX 対応>と記載されている製品《▶ p.4 を参照》)
- ◆ 本機単体でも VOX 機能は動作しますが、ヘッドセットやイヤホンマイクを接続せず VOX 機能を使用すると、周囲の音で誤送信したり、受信した音声により誤送信したりしてしまいます。誤送信を防ぐために、必ずヘッドセットまたはイヤホンマイクを接続してから VOX 機能を使用してください。
- ◆ 信号を受信しているときは、送信できません。
- ◆ VOX 機能を使用しているときは【PTT】を離しても、VOX 遅延時間設定《p.28 を参照》で設定している時間、送信を継続します。

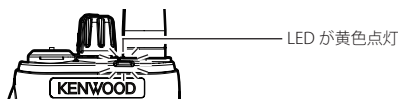
VOXレベル(マイク感度)設定

周りの環境や声の大きさによって、VOX 機能使用時のオプションのマイクロホンが感知する音声レベルを設定できます。声に合わせてスムーズに送受信が切り替わるように設定してください。


- 1 【○】を押しながら電源を入れて拡張メニューに入る
拡張メニューモードのカテゴリーアイコンが表示されます。
- 2 【▼】/【▲】で、カテゴリーアイコンの「VOX設定」にカーソルを合わせ、【○】を押し
- 3 【▼】/【▲】で、設定項目「VOXレベル」を表示させ、【○】を押し
VOX レベルの設定値が表示されます。
- 4 マイクロホンに音声を入力しながら【▼】/【▲】を押してレベルを選択する
レベル1から10のあいだで1ステップごとに設定します。



- 5 無線機のLEDが黄色点灯するまでレベルを変更する
入力した音声 VOX 送信レベルに達すると LED が黄色点灯します。




- 6 【○】を押しVOXレベルを確定する
- 7 一度電源を切ってから、再度電源を入れる

 ◆ VOX レベル (マイク感度) が高感度であるほど小さな音に反応し、VOX 送信状態になります。そのため、周りの環境の背景ノイズに合わせ、適切な VOX レベル (マイク感度) を設定してください。

VOX遅延時間設定

VOX 機能使用時に音声の最後が送信されない場合があります。このような場合は遅延時間を設定すると、話をやめたあと設定した時間は送信を継続するため音声途切れることを防ぐことができます。

- 1 【○】を押しながら電源を入れて拡張メニューに入る
拡張メニューモードのカテゴリーアイコンが表示されます。
- 2 【▼】/【▲】で、カテゴリーアイコンの「VOX設定」にカーソルを合わせ、【○】を押し
- 3 【▼】/【▲】で、設定項目「終話遅延時間」を表示させ、【○】を押し
VOX 遅延時間の設定値が表示されます。
- 4 【▼】/【▲】で、遅延時間を選択する
0.1 秒から 3.0 秒のあいだで設定します。

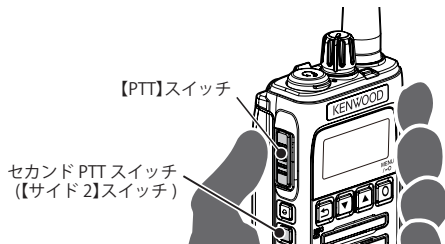


- 5 【○】を押し遅延時間を確定する
- 6 一度電源を切ってから、再度電源を入れる

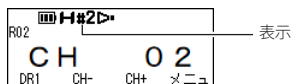
セカンド PTT チャンネル

通常の【PTT】スイッチを使って送信するチャンネルとは別に、セカンド PTT チャンネルを設定し【サイド2】スイッチを使うことで、2つ目のチャンネルで送信することができます。

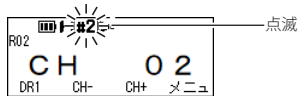
セカンド PTT チャンネルを設定すると通常のチャンネルとセカンド PTT チャンネルを交互にスキャンします。いずれかのチャンネルに受信信号がある場合はそのチャンネルにとどまり受信音声を聞くことができます。



- 1 セカンド PTT チャンネルを設定すると、「#2」アイコンが表示され、通常のチャンネルと、セカンド PTT チャンネルを交互にスキャンします。



- 2 セカンド PTT チャンネルが受信状態になると、「#2」アイコンが点滅しビープ音が鳴って、受信したことを知らせます。



- 3 【サイド2】を押すとセカンド PTT チャンネルに移動して送信します。
- 4 通常のチャンネルが受信状態になると、「#2」アイコンの表示が消えます。
- 5 通常のチャンネルで送信するときは【PTT】を押します。



◆ セカンド PTT チャンネルと通常のチャンネルが同じ場合、セカンドスキャンをおこなわないので、「#2」アイコンは表示しません。

ラジオモードセレクション機能

ラジオモードセレクションは、各モードをリスト形式で表示する機能です。
モードごとに用意されている起動手順を使用せず、各モードを選択できます。

ラジオモードセレクションの操作方法

- 1 無線機の電源を切る
- 2 **【>】**を押しながら無線機の電源を入れる
ラジオモードセレクションに入り、機能リストが表示されます。



機能リストは以下のモードが表示されます。

- Transceiver Info : 無線機情報モード
- Expanded Menu : 拡張メニューモード
- All Reset : 全初期化モード
- SPP : SPP モード (TCP-D561BTのみ)

- 3 **【▼】/【▲】**で、モードを選択し、**【○】**を押す

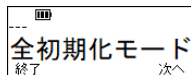


【▼】
を押す



【○】
を押す

選択したモードに移行します。



- 4 終了するには
ラジオモードセレクションを終了するには、無線機の電源を切ってから、再度電源を入れます。

無線機情報モード

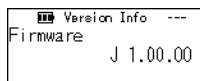
無線機に書き込まれているファームウェアバージョンを表示させる機能です。
ラジオモードセレクションからも起動することができます。《▶p.30を参照》

- 1 無線機の電源を切る
- 2 **【サイド1】**を押しながら無線機の電源を入れる
無線機情報モードに入り、「VERSION INFO」と2秒間表示したあと、ファームウェアバージョンが表示されます。



【無線機情報モード起動画面】

▶
2秒後



【ファームウェアバージョン表示画面】

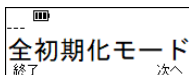
- 3 終了するには
無線機情報モードを終了するには、無線機の電源を切ってから、再度電源を入れます。

全初期化モード

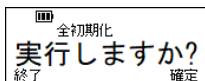
無線機各設定を、購入時の設定値に戻すことができる機能です。

ラジオモードセレクションからも起動することができます。《▶p.30を参照》

- 1 無線機の電源を切る
- 2 【サイド1】と【サイド2】を押しながら無線機の電源を入れる
全設定初期化モードに入ります。



- 3 【O】を押す



全初期化確認画面で、「実行しますか?」と表示されます。

- 4 【O】を押す
全設定初期化を実行し、無線機が再起動します。
【PTT】または【<】を押すと、無線機は初期化されずに再起動します。

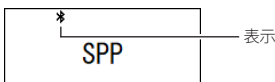
SPPモード (TCP-D561BTのみ)

SPPモードとは、一時的にBluetoothが有効なモードに遷移する機能です。普段はBluetooth機能を使用していないが、販売店でのFPU通信をおこなうときだけBluetooth接続をしたい場合に使用します。

※ SPPとは、BluetoothのSerial Port Profileの略称です。

ラジオモードセレクションからも起動することができます。《▶p.30を参照》

- 1 無線機の電源を切る
- 2 【▲】を押しながら無線機の電源を入れる
SPPモードに入り、画面に「SPP」と、アイコン「*」が表示されます。



SPPモード起動後は無線機側からの操作は不要です。


販売店にてFPU(KPG-206D)からSPP通信をおこなってください。詳細は販売店にお問い合わせください。

- 3 終了するには
SPPモードを終了するには、無線機の電源を切ってから、再度電源を入れます。

メニューモードについて

メニューモードはメニュー形式で機能を選択し、実行することができるモードです。

2つのメニューモードがあり、普段使用する機能は、メニューモードを使用し、あまり使わない機能は拡張メニューモードを使用するなどの使い分けができます。

 ◆各メニューモードの機能設定一覧は、出荷時の設定です。

メニューモードへの入り方

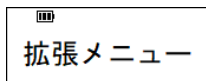
1 メニューモードは、**[○]**を押す

メニューモードに入り、カテゴリーアイコンが表示されます。



拡張メニューモードは、**[○]**を押しながら電源を入れる

拡張メニューの起動画面を表示し、2秒経過または、いずれかのキーを押すとカテゴリーアイコン表示画面に移行します。



【拡張メニュー起動画面】



【カテゴリーアイコン表示画面】

メニューモードの操作方法

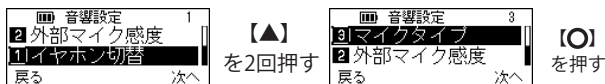
以下は拡張メニューモードの画面例です。

1 **[▼]/[▲]**で、カテゴリーアイコンを選択し、**[○]**を押す



機能リストが表示されます。

2 **[▼]/[▲]**で、機能を選択し、**[○]**を押す



選択した機能の設定値が表示されます。

3 **[▼]/[▲]**で、設定値を選択し、**[○]**を押す



4 終了するには

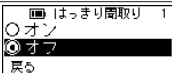
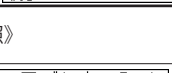
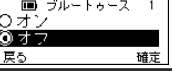
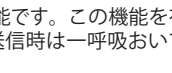
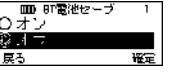
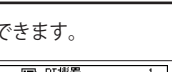
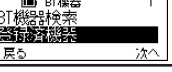
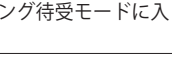
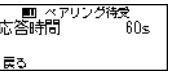
メニューモードを終了するには、**[<=>]**を押すたびにメニューモードの表示階層を上がり、チャンネル表示画面に戻ります。**[サイド 1]**を押すとチャンネル表示画面に戻ります。

拡張メニューモードを終了するには、無線機の電源を切ってから、再度電源を入れます。

メニューモード機能一覧

以下の機能一覧については工場出荷時に設定されている機能について説明します。

はっきり聞き取り	33
ブルートゥース (TCP-D561BTのみ)	33
BT 電池セーブ (TCP-D561BTのみ)	33
BT 機器 (TCP-D561BTのみ)	33
ペアリング待受 (TCP-D561BTのみ)	33
BT オプション (TCP-D561BTのみ)	34
BT 情報 (TCP-D561BTのみ)	34
BT リセット (TCP-D561BTのみ)	34
BT スピーカー (TCP-D561BTのみ)	34
2nd PTT CH	34
UC 設定	34
上空 CH	34
秘話	34
VOX	35

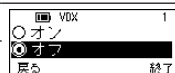
機能項目表示	機能説明	
設定値	設定値説明	設定画面表示
はっきり聞き取り	はっきり聞き取り機能を有効または無効にします。 この機能を有効にすると、受信した音声を周囲の環境に適した音質モードに切り替えて、騒音下などでも聞き取りやすくすることができます。《▶p.25 を参照》	
オフ	はっきり聞き取り機能が停止します。	
オン	はっきり聞き取り機能が起動します。	
ブルートゥース (TCP-D561BTのみ)	内蔵 Bluetooth 機能を有効または無効にします。《▶p.20 を参照》	
オフ	Bluetooth 機能が停止します。	
オン	Bluetooth 機能が起動します。	
BT電池セーブ (TCP-D561BTのみ)	接続しているワイヤレスヘッドセットの電池の消費を抑える機能です。この機能を有効にすると、通話時に頭切れが発生することがあります。送信時は一呼吸おいてから通話を開始してください。	
オフ	BT 電池セーブ機能が停止します。	
オン	BT 電池セーブ機能が起動します。	
BT機器 (TCP-D561BTのみ)	無線機に接続する Bluetooth 対応機器を検索して接続することができます。	
登録済機器	登録済みの Bluetooth 対応機器を表示します。	
BT 機器検索	Bluetooth 対応機器を検索します。	
ペアリング待受 (TCP-D561BTのみ)	Bluetooth 対応機器の検索に応答するための Bluetooth ペアリング待受モードに入ります。 Bluetooth 対応機器からの検索動作に応答すると、無線機は Bluetooth 対応機器に Bluetooth 機器名と Bluetooth 機器アドレスを最大 60 秒通知します。 無線機が Bluetooth 対応機器からの検索動作に応答できる時間を表示することができます。 この機能を使用するためには、販売店にて FPU の Bluetooth ペアリング待受け (Bluetooth) チェックボックスを無効にする設定が必要です。	
ペアリング待受モード		

操作のしかた

BTオプション <small>(TCP-D561BTのみ)</small>	Bluetooth HSP (Headset Profile) 接続を使用して無線機に接続する Bluetooth 対応機器 (ヘッドセット) の接続方式を設定することができます。	
ヘッドセット 1	KENWOOD 製 ワイヤレスヘッドセット KHS-55BT と接続する場合に使用してください。	
ヘッドセット 2	予備用 (使用しません。)	
BT情報 <small>(TCP-D561BTのみ)</small>	Bluetooth 情報モードに入ります。	
Bluetooth 情報モード	無線機に設定されている Bluetooth 機器名、Bluetooth 機器アドレス、デバイスクラスを確認することができます。	
BTリセット <small>(TCP-D561BTのみ)</small>	Bluetooth の機能をリセットすることができます。この機能を使用すると、無線機の電源を切ることなく、Bluetooth の機能を正常な状態に戻すことができます。	
取消	メニューモードを終了し、待受け表示に戻ります。	
開始	Bluetooth 機能の設定内容をリセットします。	
BTスピーカー <small>(TCP-D561BTのみ)</small>	無線機とヘッドセットプロファイルで接続している Bluetooth 対応機器のスピーカーと、無線機の内部スピーカーとのあいだで音声の出力先を切り替えます。	
オフ	Bluetooth 対応機器と接続中の場合に切り替え可能となります。	
BTのみ	無線機の内部スピーカーに出力します。	
2nd PTT CH	通常の【PTT】スイッチを使って送信するチャンネルとは別に、セカンド PTT チャンネルを設定し【サイド 2】スイッチを使って送信する 2 つ目のチャンネルを使用することができます。 【サイド 2】スイッチを押したときに送信されるチャンネルを設定することができます。セカンド PTT 機能の運用方法は ●p.29 を参照してください。	
なし	セカンド PTT 機能が停止します。	
チャンネル 1~チャンネル 30	チャンネルを選択するとセカンド PTT 機能がオンになり、スクリーンを開始します。	
UC設定	ユーザーコード通話とは、同じチャンネルを複数のユーザーが使用している場合、同じユーザーコードを設定している通話グループの音声だけを聞こえるようにするグループ通話方式です。 (●p.18 を参照)	
なし	ユーザーコードを使用しません。	
1~511	選択した番号がユーザーコードに設定されます。	
上空CH	登録局に対する上空利用割当周波数 (351.16875 ~ 351.19375 MHz (6.25 kHz 間隔) の 5 波) の S1 ~ S5 チャンネルを受信できるようにする設定です。	
陸上	陸上チャンネル (CH-01~CH30) の送受信ができます。	
陸上 + 上空	陸上チャンネルの送受信と、上空チャンネル (S1~S5) を受信できます。(受信専用です)	
秘話	デジタルでの音声通話に暗号化をおこない、秘匿性を高めた通話ができる機能です。秘話送信機能のオン/オフを設定します。 (●p.19 を参照)	
オフ	秘話機能は動作しません。	
オン	秘話機能が動作します。	

操作のしかた

VOX	VOXとは、【PTT】を押すことなく、マイクロホンへの音声入力のみで送信できる機能です。 両手がふさがった状態で作業をしているときなど、【PTT】を押すことができない状況で使用します。《▶ p.27を参照》
オフ	VOX機能が停止します。
オン	VOX機能が動作します。



拡張メニューモード機能一覧

以下の機能一覧については工場出荷時に設定されている機能について説明します。

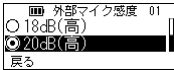
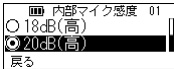
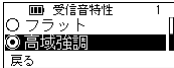
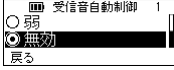
イヤホン切替	36
外部マイク感度	37
マイクタイプ	37
内部マイク感度	37
受信音特性	37
受信音自動制御	37
送信音特性	38
送信音自動制御	38
はっきりレベル	38
電池セーブ	38
PTT ホールド	38
2nd PTT BEEP	38
2nd SCAN TIME	39
縦倍角設定	39
シークスキャン	39
電源オン LED	39
通話開始トーン	39
終話トーン	39
キー操作音	39
送信お知らせ音	39
お知らせ音音色	40
一括秘話鍵	40
個別 ID	40
VOX レベル	40
終話遅延時間	40
全初期化モード	40



◆ ブルートゥース / BT 電池セーブ / BT 機器 / ペアリング待受 / BT オプション / BT 情報 / BT リセット / BT スピーカー の機能項目は、メニューモードでも設定できます。設定内容については、メニューモード機能一覧《p.33》を参照ください。

機能項目表示	機能説明	
	設定値	設定画面表示
イヤホン切替	通常モノラルイヤホンを接続した場合は、無線機の【PTT】は使用できませんが、イヤホンモードをオンにすると、無線機の【PTT】を使用することができます。(モノラルイヤホンは弊社推奨製品を使用してください。)	
オフ	<ul style="list-style-type: none"> ◆専用オプションや推奨モノラルイヤホン以外のプラグを挿入すると無線機、およびイヤホンを破損する場合がありますのでおやめください。 ◆専用オプション以外を接続している場合、端子部は防水にはなりません。 ◆推奨モノラルイヤホンについては弊社ウェブサイトをご覧ください。 	
オン	専用オプションのイヤホンマイクロホンやヘッドセット、スピーカーマイクロホンを使用するときに設定します。	
オン	推奨モノラルイヤホンを使用するときに設定します。無線機本体の【PTT】が使用できます。	

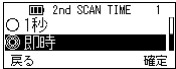
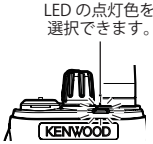
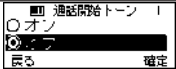
操作のしかた

外部マイク感度	スピーカーマイク用時など、外部マイク用時の感度を変更することができます。2dB ステップごとに変更できます。	
20dB(高)~ 0dB(標準) ~-20dB(低)	-の数字が大きくなるほど感度が低くなります。0dBは標準感度になります。 数字が大きくなるほど感度が高くなります。	
マイクタイプ	無線機に接続する外部マイクの種類を設定し、音質を最適な状態にすることができます。 ◆無線機とBluetooth ヘッドセットを接続した場合は、マイクタイプの設定は「オフ」として動作します。外部マイクの音質は調整されません。(TCP-D561BTのみ)	
なし	オーディオ特性を補正しません。	
マイク 1	EMC-13 を接続時に設定します。	
マイク 2	EMC-14 を接続時に設定します。	
マイク 3	EMC-15 を接続時に設定します。	
マイク 4	KMC-55 を接続時に設定します。	
マイク 5	KHS-37 を接続時に設定します。	
マイク 6	SMC-35 を接続時に設定します。	
マイク 7	EMC-16 を接続時に設定します。	
マイク 8	SMC-36 を接続時に設定します。	
内部マイク感度	内部マイク用時の感度を変更することができます。2dB ステップごとに変更できます。	
20dB(高)~ 0dB(標準) ~-20dB(低)	マイナスの数字が大きくなるほど感度が低くなります。0dBは標準感度になります。 数字が大きくなるほど感度が高くなります。	
受信音特性	無線機を使用する環境や、相手側の使用環境や声質、マイク用時、および外部接続機器などの特性により受信音質が変化します。この機能を使用すると、使用状況や好みに応じて受信音質を調整できます。 ◆はっきり聞き取り機能が「オン」のときは、はっきりレベルの設定が優先されます。	
高域強調	音声の高域を強調し、明瞭で会話を確実に聞き取ることを重視した音質になります。	
フラット	標準的な音質になります。	
低域強調	音声の高域を抑え、低域を豊かにします。落ちついた自然な音質になります。	
受信音自動制御	受信音量が現在の【電源/音量】の位置に応じて自動的に一定のレベルに調整されるため、送信側の入力レベルに強弱がある場合に音声聞き取りやすくなる効果があります。	
無効	音量の自動調整をおこないません。	
弱	現在の音量設定に合わせ、一定のレベルの音量に調整されます。	
強	「弱」よりも効果が強くなります。ただし送信側の小さな音も大きくなり、ハウリングしやすくなるため、送信側が静かな環境のときに使用することをお勧めします。	

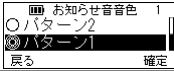
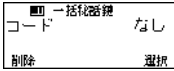
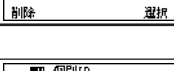

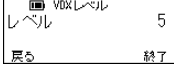

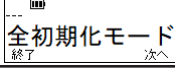
操作のしかた

送信音特性	無線機を使用する環境や声質・マイクロホンおよび外部接続機器などの特性により送信音質が変化します。この機能を使用すると、使用状況や好みに応じて送信音質を調整できます。	
高域強調	音声の高域を強調し、明瞭で会話を確実に聞き取ることを重視した音質になります。	
フラット	標準的な音質になります。	
低域強調	音声の高域を抑え、低域を豊かにします。落ちついた自然な音質になります。	
送信音自動制御	送信する際の声の大きさや口元からマイクロホンまでの距離などによって、送信音量が大きく変わり、受信側で聞きづらくなってしまうことがあります。この機能を使用すると、マイクロホンの感度が自動的に調整されて、受信側での音声聞き取りやすくなる効果があります。	
オフ	マイクロホンの感度を一定にします。	
オン	マイクロホンの感度を自動的に調整します。	
はっきりレベル	はっきり聞き取り機能の効果を設定することができます。はっきりレベルモードでは、はっきりレベルの設定を、「弱」、「中」、「強」のいずれかに変更することができます。	
弱	周囲雑音に応じたオーディオ特性に切り替えます。周囲雑音小さいときに適しています。	
中	周囲雑音に応じたオーディオ特性に切り替え、さらに音量を3dB上げます。はっきりレベルが「弱」の設定より高い効果を得られます。	
強	周囲雑音に応じたオーディオ特性に切り替え、さらに音量を6dB上げます。周囲雑音大きいときに適しています。	
電池セーブ	無線機がスタンバイ状態のあいだに間欠的に信号の有無をモニターすることにより、電池の消耗を防ぐ機能です。信号を受信するか、キー操作するとバッテリーセーブは一時的に解除されます。	
オフ	電池セーブ機能は動作しません。	
オン	電池セーブ機能が動作します。	
ECO	電池セーブ機能が動作します。 各チャンネルの送信出力がローパワーになり、ハイパワーへの切り替えはできません。 「オン」よりも「Eco」のほうが電池セーブ状態に早く入れます。	
PTTホールド	VOX 機能を使用せずにハンズフリーで運用する機能です。通常は送信するとき【PTT】を押し、離せば送信終了します。 本機能をオンに設定すると、【PTT】を一度押せば【PTT】を離しても送信が継続します。送信をやめるときはもう一度【PTT】を押します。 ◆Bluetooth ヘッドセットには反映されません。Bluetooth ヘッドセットに PTT ホールド動作がある場合、Bluetooth ヘッドセット側で設定してご使用ください。対応する Bluetooth ヘッドセットは、「 https://www.kenwood.com/jp/support/com/wireless-headset 」をご参照ください。 <small>(TCP-D561BTのみ)</small>	
オフ	【PTT】を押して、離すと送信が終了します。	
オン	【PTT】を押すと押した状態が継続されます。	
2 回押し	【PTT】を素早く2回押しと押した状態が継続されます。	
2nd PTT BEEP	セカンド PTT チャンネル送受信時に通常の選択チャンネルと区別するためピープ音を鳴らします。	
オフ	ピープ音を鳴らしません。	
オン	ピープ音を鳴らします。	

操作のしかた

2nd SCAN TIME	セカンド PTT スキャン停止後、受信信号がなくなってからスキャンを再開するまでの時間を設定します。	
即時	即時にセカンド PTT スキャンを開始します。	
1 秒	1 秒後にセカンド PTT スキャンを開始します。	
2 秒	2 秒後にセカンド PTT スキャンを開始します。	
5 秒	5 秒後にセカンド PTT スキャンを開始します。	
10 秒	10 秒後にセカンド PTT スキャンを開始します。	
縦倍角設定	メニューの設定項目を縦倍角 (32X16) で大きく表示できます。	
オフ	16 × 16 ドットの通常文字表示になります。	
オン	32 × 16 ドットの縦倍角文字表示になります。	
シークスキャン	スキャン対象に設定されているチャンネルをスキャンし、スキャン停止と同時にスキャンを終了することができます。運用中のチャンネルを確認し、そのまま会話に参加する場合に使います。	
オフ	シークスキャンを停止します。	
オン	シークスキャンを動作させます。	
電源オンLED	電源オン時に点灯する LED の色を選択できます。使用者やグループを識別したいときに便利です。	
無効	電源オン時に LED を点灯しません。	
黄色	電源オン時に LED が黄色に約 2 秒間点灯します。	
紫色	電源オン時に LED が紫色に約 2 秒間点灯します。	
青色	電源オン時に LED が青色に約 2 秒間点灯します。	
水色	電源オン時に LED が水色に約 2 秒間点灯します。	
赤色	電源オン時に LED が赤色に約 2 秒間点灯します。	
緑色	電源オン時に LED が緑色に約 2 秒間点灯します。	
白色	電源オン時に LED が白色に約 2 秒間点灯します。	 
通話開始トーン	【PTT】を押して送信したときに、通話が可能な状態になったことを送信者に音で知らせる機能です。通話の頭切れを防ぐために使用します。	
オフ	通話開始告知音を鳴らしません。	
オン	通話開始告知音を鳴らします。	
終話トーン	送信者が【PTT】を離して送信を終了したことを、受信者に知らせるための告知音です。送信者が送信を終了したことが音でわかるため、返事を返すタイミングがつかみやすくなります。	
オフ	終話告知音を鳴らしません。	
オン	終話告知音を鳴らします。	
キー操作音	キー操作音の音量を変更することができます。	
受信音連動	【電源/音量】の位置と連動して音量が変化します。	
選択	固定音量キーと連動して音量が変化します。	
オフ	キー操作音を鳴らしません。	
1~31	選択したレベルの一定音量になります。	
送信お知らせ音	受信者に通話の開始を音で知らせる機能です。 ◆送信者、受信者両方に音で知らせる機能です。 ◆送信お知らせ音をオンしているあいだは、通話開始トーンはなりません。	
オフ	送信お知らせ音を鳴らしません。	
オン	送信お知らせ音を鳴らします。	

操作のしかた

お知らせ音色	送信お知らせ音の音色を選択します。	
パターン 1~6	6種類の音色から選択します。	
一括秘話鍵	秘話鍵コードを設定します。秘話機能のオン/オフはメニューの「秘話」で設定します。 《☛ p.34 を参照》	
なし	秘話鍵コードが設定されません。	
1~32767	選択した秘話鍵コードが設定されます。	
個別ID	無線機の個別IDを設定することができます。	
1~65519	設定した個別IDコードが登録されます。	
VOXレベル	VOX機能を使用するためのマイクロホンの音声入力感度を設定します。 《☛ p.28 を参照》	
1~10	音声の大きさや周辺の雑音の状況に応じて、マイクロホンに向かって話すときに、VOX機能が確実に動作するように調整します。話しても動作しないときは、数値を徐々に大きくします。	
終話遅延時間	VOX送信しているとき、マイクロホンからの音声入力が無くなったあとに、送信状態を一定時間保持する機能です。 本機能により、音声入力が途切れてVOXが動作するマイク感度に達しなくても送信が一定時間保持され、VOX送信が途切れることを防止することができます。 《☛ p.28 を参照》	
0.1秒/0.3秒/0.5秒/1.0秒/1.5秒/2.0秒/3.0秒	送信中、0.1秒から、3.0秒まで選択した時間のなかでVOX動作するマイク感度に達する音声入力があるとVOX送信が継続します。	
全初期化モード	全設定を初期化すると、設定されている内容はすべて購入時の状態に戻ります。 《☛ p.31 を参照》	
全初期化	全設定初期化モードに入ります。	

販売店にて追加できる機能について

販売店でのオプション設定により、下記機能などが設定できます。

設定できる機能の詳細や操作については販売店にお問い合わせください。

- グループ ACS 機能
- デュアルグループ ACS 機能
- ゾーン設定
- EMC-16 (イヤホン付きクリップマイクロホン) の PTT / PF キー入れ替え設定
- 劇場モード
- 秘話プラス機能
- 呼出チャンネルでの送信元端末名表示
- 任意のチャンネルネーム設定
- 電池セーブ機能での eco モード設定
- 各種トーン音量設定
- 着信トーン編集
- チャンネル読み上げ機能
- 本体および KMC-55 (オプションスピーカーマイクロホン) のキーカスタマイズ設定
- PTT 選択呼出し機能
- ステータスメッセージ機能
- ショートメッセージ機能
- サイレントアラーム機能
- コネクトアンサー機能
- モニター機能
- エマージェンシー機能
- メニューモードおよび拡張メニューモード項目追加 / 削除設定機能

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に下の表を確認してください。該当する症状がない場合や異常を解決できない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

症状	原因	処置	参照ページ
電源が入らない。	電池の容量が低下している。	バッテリーパックを充電する。	p.7
		バッテリーパックを交換する。	p.5
通話ができない。 【電源/音量】を回しても音が出ない。	相手局とチャンネル設定が違っている。	同じチャンネル設定にする。	p.15
	相手局と音声圧縮(符号化)の方式が違っている。	本機と同じ AMBE 方式の無線機と交信する。	—
	相手局とユーザーコード (UC) が違っている。	同じユーザーコード (UC) にする。	p.18
	相手局と秘話設定が異なる。	相手局の秘話設定と合わせる。	p.19
	他のグループが同じチャンネル番号を使用している。	他のチャンネルに変更する。	—
送信ができない。	相手との距離が離れすぎている。	下記の通信のできる距離を目安に通信する。 ※送信出力 5 W 出力時 ・市街地: 0.5 km ~ 1 km ・見通しのよい場所: 1 km ~ 4 km 建築物が多い地域や、自動車などの金属物体の周囲では、通話のできる距離が短くなります。	—
	グループ番号が違っている。	送信側/受信側ともにグループ番号を合わせる。	—
	現在のチャンネルで受信信号があるため、キャリアセンス(混信防止機能)が働いている。	チャンネルを変更するか、LEDの緑点灯が消えるのを待つ。	p.17
秘話設定やユーザーコード設定ができない。	スピーカーマイクロホンやイヤホンマイクの接続が外れている。	スピーカーマイクロホンやイヤホンマイクの接続を確認する。	p.10
	通話時間の制限が働いている。	5分間の連続送信により自動的に送信が停止した場合は、1分以上待つ。	p.17
チャンネルが切り替わらない。	呼出用チャンネル (CH15) になっている。	CH 1~CH 14, CH 16~CH 30 を使用する。	p.15
「接続異常」が表示される。	キーロックになっている。	キーロックを解除する。	p.25
オートチャンネルセレクトが動作しない。	スピーカーマイクロホンやイヤホンマイクの接続が外れている。	スピーカーマイクロホンやイヤホンマイクの接続を確認する。	p.10
Bluetooth接続できない。 TCP-D561BTのみ	ユーザーコードが設定されていない。	送信側/受信側ともに同じユーザーコードを設定する。	p.23
	接続する Bluetooth 機器の電源が入っていない。	Bluetooth 接続する機器の電源を入れる。	p.20
	Bluetooth 機能の設定が「オン」になっていない。	Bluetooth 機能の設定を「オン」にする。	p.20
	接続したい Bluetooth 機器以外の Bluetooth 機器を接続している。	接続したい Bluetooth 機器だけを電源オンにする。	p.20



電波法に関するご注意

- 本機は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計認証を取得した、デジタル簡易無線電話装置です。本機を分解・改造して使用すること、また本機裏面の工事設計認証ラベルをはがして使用することは、電波法により禁止されています。
- 登録状の範囲を超えた運用は電波法違反となりますのでご注意ください。
- 他人の通話を聞いて、その内容を漏らすこと、または窃用することは電波法により禁止されています。
- 無線局の登録（包括登録の場合には開設の届出）をおこなうと、総務省より電波利用料の納入告知書が送付されて来ますので、納付期限内に電波利用料を納付してください。
- 登録局の有効期間は、登録の日から5年間です。再登録の申請は、登録の有効期間満了の3か月前から1か月前までの期間内に手続きをおこなってください。再登録をおこなわずに本機を使用しますと、「電波法第110条」により、「1年以下の懲役又は百万円以下の罰金」に処せられます。十分ご注意ください。
- その他、必要に応じて下記の手続きをおこなってください。
 - ・ 登録状の記載事項に変更が生じる場合（変更登録）
 - ・ 登録状が破れたり、汚れたり、紛失した場合（再交付申請）
 - ・ 登録した無線機を廃止する場合（廃止届出）
 - ・ 友人などに登録した無線機を貸出した場合（無線局の運用の特例に係る届出）
- 申請および届出の各種手続きについては、お買い上げの販売店にお問い合わせください。簡易無線局の申請には、下図の技適番号での上側の「簡易無線局認証番号」を記入して下さい。



※各番号の記載位置は変更になる場合があります。

JVCケンウッド カスタマーサポートセンター

固定電話からは、フリーダイヤル		0120-2727-87
携帯電話・PHSからは、ナビダイヤル		0570-010-114
一部のIP電話など、フリーダイヤル、 ナビダイヤルがご利用になれない場合は		045-450-8950
FAXを送信される場合は		045-450-2308
住所	〒 221-0022	神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12
受付日	月曜日～土曜日（祝祭日および、弊社休日を除く）	
受付時間	月～金曜日	9：30～18：00
	土曜日	9：30～12：00、13：00～17：30

- 商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、JVCケンウッドカスタマーサポートセンターをご利用ください。
- 修理などアフターサービスについては、下記 URL の弊社ウェブサイトをご覧ください。JVCケンウッドカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

<https://www.kenwood.com/jp/cs/service.html>

株式会社 JVCケンウッド

〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12

© 2021 JVCKENWOOD Corporation